

月刊 都響
February 2023



2023
2/23

気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

Promenade Concert

プロムナードコンサート No.400

会場：サントリーホール

指揮／デイヴィッド・レイランド

ピアノ／ティル・フェルナー

♪ シューマン：《マンフレッド》序曲 op.115 (約12分)

♪ モーツァルト：ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K.466 (約30分)

♪ シューマン：交響曲第3番 変ホ長調 op.97 《ライン》 (約33分)

東京都交響楽団

PROGRAM NOTES

今日のコンサートは、ベルギー出身の指揮者、デイヴィッド・レイランドさんが登場します。シューマンとゆかりの深いデュッセルドルフ交響楽団などで活躍しています。今日はレイランドさんが得意とするモーツァルトとシューマンのプログラムをお楽しみいただきます。

シューマン：《マンフレッド》序曲 op.115

3つの和音の力強い響きで始まるこの曲は、ドイツの作曲家シューマン（1810～56）が、劇の冒頭に演奏される「序曲」として作ったものです。タイトルの《マンフレッド》とは、その劇の題名でもあり、主人公の名前でもあります。

シューマンは若いころから文学が大好きで、自分でも文章を書くことが得意でした。そして彼は、音楽と文学とを結びつけた作品を手がけるようになります。《マンフレッド》は、シューマンと同じ時代を生きたイギリスの詩人バイロンが書いた劇詩です。恋人を死に追いやってしまった主人公マンフレッドは、そのことを深く思い悩み、精霊の力を借りて忘れようとはしますが、やがて自分も死に向かおうとする内容です。強い感情を呼び覚ますこの劇詩に、シューマンは38歳の時（1818年）に音楽を付けました。「序曲」は最初から最後まで悲劇的な雰囲気をつたえ、オーケストラの響きが感情の高まりを見事に表現しています。



モーツァルト：ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K.466

モーツァルト（1756～91）はシューマンよりも半世紀ほど前の時代を生きた人です。この時代の音楽家たちは、貴族のリクエストに応じて華やかで明るい音楽を作ることが多く、モーツァルトも長調の爽やかな曲を数多く残しています。しかし、彼は23曲あるピアノ協奏曲のうち2つだけ、暗さや悲劇的な表情を帯びた短調で描きました。この第20番二短調はその一つです（もう一つは第24番ハ短調）。



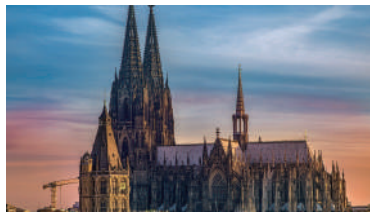
当時29歳だったモーツァルトはウィーンで人気の作曲家として活躍し、貴族のお屋敷でのコンサートや予約演奏会でスケジュールは過密状態。そうした中でも、何か音楽に新しい風を吹き込もうとしたのでしょうか、当時としては非常にドラマティックな曲想をもつこの協奏曲は、モーツァルトの最高傑作に数えられています。曲は三つの楽章で構成されています。緊張感に満ちた**第1楽章**、一転して穏やかなメロディーで始まる**第2楽章**、そしてピアノ独奏の腕前の見せ所も多い**第3楽章**です。

第2楽章が、モーツァルトの半生を描いた映画『アマデウス』（1984年）のエンディングで使用され、この曲は一躍有名になりました。

シューマン：交響曲第3番 変ホ長調 op.97 《ライン》

ふたたびシューマンの作品です。この交響曲に付けられたタイトルの《ライン》とは、ドイツの都市を流れるライン川のことです。シューマンは40歳の時に、デュッセルドルフという都市の音楽監督の仕事をするようになりました。市のオーケストラのために曲を書いたり、指揮をしたり、コンサートを開くのが監督の仕事です。依頼を受けたシューマンは、やる気に満ちあふれ、ライン川の流れるこの市に意気揚々と引っ越してきました。そして、デュッセルドルフの美しい街並みや、大聖堂の美しさに心を打たれながら、この交響曲を作りあげたのです。そこからこの作品は《ライン》と呼ばれるようになったわけですが、シューマン自身が付けたタイトルではありません。

曲は5つの楽章でできています。明るく希望を感じさせる**第1楽章**からは、音楽監督に着任したシューマンや、彼を歓迎する人々の表情が目に浮かぶようです。**第2楽章**はほのぼのと伸びやかな音楽です。川沿いののどかな情景が感じられます。**第3楽章**は木管楽器や弦楽器の奏でる柔らかなメロディーが印象的です。**第4楽章**は、ライン川上流に位置するケルン大聖堂にインスピレーションを受けて作曲されました。ホルンとトロンボーンによって提示される荘厳なテーマがオーケストラ全体に広がっていきます。**第5楽章**は快活な曲想に戻り、みずみずしく勢いのある音楽で締めくくられます。



ケルン大聖堂

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

指揮 デイヴィッド・レイランド David REILAND



©Jean-Baptiste Millot

ベルギー出身。サクソフォン奏者として活躍した後、指揮者の道に進む。モーツァルトの指揮に定評があるレイランドは、ザルツブルク・モーツァルトウム管弦楽団の副指揮者を経て、現在、フランス国立メス管弦楽団、ローザンヌ・シンフォニエッタ、韓国国立交響楽団の音楽監督を務めている。また、2020年にはデュッセルドルフ交響楽団の「シューマン・ゲスト」に就任した。

近年はベルギー国立管弦楽団、スイス・ロマンダ管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団など各国の著名なオーケストラに招かれている。都響とは2021年9月に続き、2回目の共演。

ピアノ ティル・フェルナー Till FELLNER



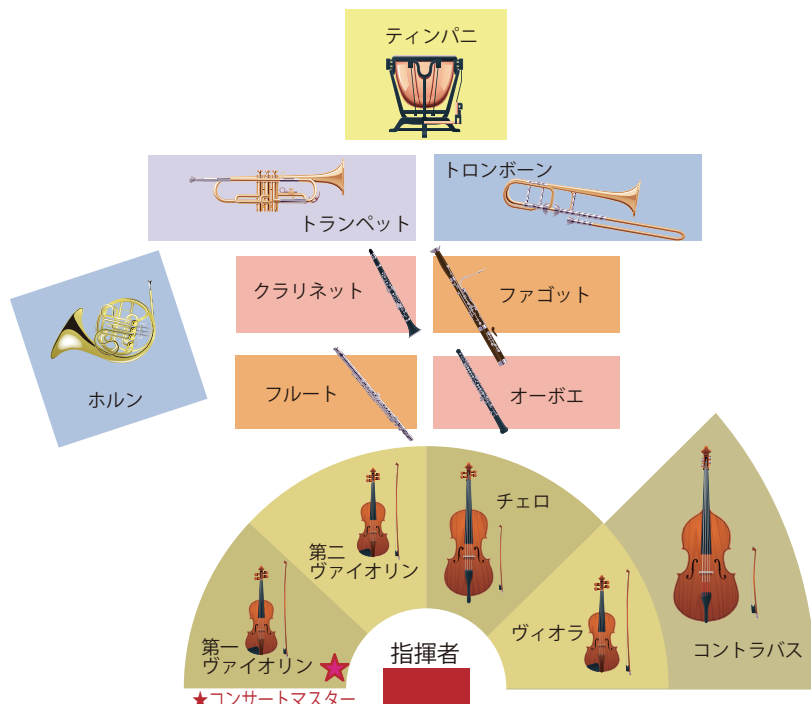
©Gabriela Brandenstein

ウィーン出身。1993年のクララ・ハスキル国際コンクールに優勝して国際的に注目を集めた。クラウドディオ・アバド、ヘルベルト・ブロムシュテットといった著名指揮者との共演で、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニックなどに客演。室内楽ではテノールのマーク・パドモア、ヴァイオリンのヴィヴィアン・ハーグナー、ベルチャ弦楽四重奏団と定期的に活動している。

『平均律クラヴィア曲集第1巻』などのJ.S.バッハ作品やケント・ナガノ指揮モントリオール交響楽団との共演による『ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第4番・第5番《皇帝》』などのCDが発売されている。

オーケストラ配置図（2月23日 プロムナードコンサートNo.400）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してみてくださいね。



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

TMSO 東京都交響楽団



東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。
都響（ときょう）という愛称で親しま
れています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術
劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、
交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』など
ゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、
病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、
「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。

